



日本

の源流再発見

もみじ谷大吊橋

歴史ある温泉と酪農で栄える町



栃木県の最北部に位置する那須塩原市は、日本有数の温泉地。生乳の産出額が本州第1位(全国4位)と酪農も盛んです。近隣の大田原市、矢板市、那須町とともに、日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」に認定されています。

File 25 栃木県那須塩原市

華族農場によって生まれ変わった不毛の大地

湯治場として1000年以上の歴史を持つ塩原温泉郷をはじめ、緑豊かな溪谷の風景も美しい那須塩原市。東北新幹線の駅があり、東京駅から1時間強という近さもあって、人気の観光地です。しかし、明治の初めごろまでは、ほとんど人の手が入らない原野がありました。

那須塩原市のある那須野が原は、4万haにも及ぶ緩やかに傾斜した台地で、平らな土地が続きます。しかし扇状地のため、その中央部は土砂や火山石が厚く堆積しており、水利の便が悪く農地としては使えません。そのため、

古来かやぶき屋根の材料を収穫するためのかや場などに使われてきました。

この未開の原野は、1880年から新たな開拓地として生まれ変わります。華族が出資する農場が次々と設立され、酪農をはじめとする西洋式の大規模農法が試みられました。当時の華族が農場に滞在する際に利用した壮麗な別荘が今もいくつか残っており、一部は公開されています。塩原には、1946年まで皇室の別邸である御用邸もあり、その一部が移築され「天皇の間記念公園」内に旧塩原御用邸新御座所として一般公開されています。



那須疏水本幹の蛇尾川サイフォン出口

那須野が原の開拓において、とても重要だったのが水利です。ここには^{さびがわ}蛇尾川と熊川という一級河川がありますが、どちらも水が地下に浸透してしまうため、約10kmにわたって石がゴロゴロと横たわる水無川です。そのため、川があっても水が使えなかったのです。そこで、那珂川から水を引く那須疏水^{すずい}



▲ 旧塩原御用邸新御座所

大正天皇が好んで利用された塩原御用邸のうち、「天皇の間」と呼ばれていた新御座所が移築保存されています。当時の県令(今の県知事にあたる)三島通庸(みちつね)が建築した別荘が前身です



▲ 那須野が原博物館

三島通庸が創設した大農場「三島農場」の事務所跡に建つ博物館。多彩な展示のほか、各種講座や体験教室なども開催しています



▲ 那須野が原公園

千本松、接骨木(にわとこ)にまたがる地域に整備された県営の大規模公園です。自然林や丘陵が残る自然を満喫できるとともに、プールやそり遊び広場など遊戯施設も充実。大人も子どもも楽しめます



▲ 蛇尾川

洪水時には川底に降り立つことができる水無川です。石が横たわる風景は川とは思えない不思議さ。大雨が降ると水で満たされます

が造られました。16.3kmにも及ぶ本幹水路は、1885年4月15日着工、9月15日完成と、採掘機のない時代にわずか5か月という驚異的なスピードで造られました。完工後4本の分水路が造られましたが、これらも同様に急ピッチで作業が進められ、翌1886年には完成。那須野が原の開拓が、いかに重要な国家的事業であったかがわかります。那須疏水の本幹水路が蛇尾川を横断する地点では、河床を掘り下げて石積みかしょうのトンネルを造り、サイフォンの原理で水を流しました。その出口が今でも残っており、西側には現在使われているサイ

フォンの出口があります。また、那須野が原の歴史や自然、民俗は「那須野が原博物館」で学ぶことができます。

博物館のある町中から塩原温泉郷のある山間部へほつきがわ箒川沿いに登ると、美しい森林や溪谷の風景を楽しめます。趣のあるつり橋や滝が多く、豊かな自然を満喫できます。

日立グループ事業所紹介

今回訪れた栃木県には株式会社 日立ハイテクノロジーズ 栃木営業所があります。科学・医用システム、電子デバイスシステム、産業システム、先端産業部材のセグメントで、グローバルな事業展開を行っています。

株式会社 日立ハイテクノロジーズ 栃木営業所

栃木県栃木市大平町大字富田5-111 (グランディコート大平)

<https://www.hitachi-hightech.com/jp/>

ココに注目

「御用邸チーズケーキ」(左)で人気のチーズガーデン 塩原珈琲は、カフェ併設の菓子店。右の「あっぱるぱい」はこの店舗のみで販売。

